青年期における特性罪悪感と対人関係ネットワーク

○岡田顕宏

(札幌国際大学)

キーワード: 罪悪感, 良心, NRI

Trait-Guilt and the Network of Relationship in adolescence

Akihiro OKADA

(Sapporo International University)

Key Words: Guilt-feeling, Conscience, NRI

問 題

罪悪感には二つの側面があるとされる(Solomon et al., 1968)。一つは、行為の後に自らを責めるような意識体験や苦痛を伴うものである。もう一つは、行為の前に自らの行動を抑止するように働くものであり、その行為への動因が強い場合には葛藤を生じさせる。いずれの場合であっても、感情としての罪悪感、『その行為は悪いことである(であった)』という単なる認知的理解だけではなく、何らかの行動を動機づける感情体験といえる。

岡田 (2011) は、上記の二側面を含む多面的特性罪悪感(岡田, 2010)と既存のパーソナリティ諸特性(MPI, BIS/BAS, NEO-FFI-R)との比較を行った。その結果、慢性的苦悩罪悪感(行為のあとに続く苦悩の感情)と神経症傾向のようないくつかのパーソナリティ特性(神経症傾向および BIS)と中程度以上の正の相関が見出されたが、誘惑への抵抗(反社会的行動の抑制につながる感情)との間に中程度以上の相関を示すものはなかった。神経症傾向のようなネガティブな感情の抱きやすさが、慢性的苦悩罪悪感の根底にあることが示唆された。しかしながら、誘惑への抵抗のような特性は、必ずしも個人のパーソナリティに大きく依存したものではなく、別の後天的な要因の影響が大きいたことが示唆された。

罪悪感や良心は、環境における他者との相互作用のなかで獲得・機能するものであると考えられ、家族を含めた他者との関係性と関連のあることが予測される。

本研究では、個人の対人関係のネットワークと尺度によって測定される特性罪悪感との比較を行った。対人関係のネットワークを測定するために、The Network of Relationship Inventory: BSV (以下, NRI) を用いた。この尺度は、Furman and Buhrmester (2009)によって開発された、他者との対人関係ネットワークを測定するための質問紙である。母親、父親、きょうだい、友人、恋人等との関係に関する 24 項目から構成され、支持的な関係を示す 5 つの下位尺度と否定的相互作用を示す 3 つの下位尺度に分けられている。両親や友人などとの親密さと個人の罪悪感の諸側面との関連性を調べるのが本研究の目的であった。

方 法

被調査者

札幌国際大学の大学生 225 名が調査に参加した。

材料および手続き

Network of the Relationship Inventory (Furman & Buhrmester, 2009) を日本語化したものおよび多面的特性罪悪感尺度 (岡田, 2010) を使用した。これら 2 つの尺度は別々に施行された。

結 果

NRI の信頼性

記入漏れ等を除く有効データ ($n = 207$) について NRI の各下位尺度の α 係数を対象人物毎に算出した。友人との「葛藤 conflict」($\alpha = .68$) および「批判 criticism」($\alpha = .73$) の値が低かったの

を除き、 $\alpha = .80 \sim .96$ と高い信頼性が示された。支持的関係因子 ($.94 < \alpha < .96$) および否定的相互作用因子 ($.96 < \alpha < .99$) も高い信頼性が示された。

NRI と特性罪悪感の相関

NRI と特性罪悪感尺度の両尺度に回答した有効データ 60 名分 (男性 19 名、女性 31 名) を対象に以下の分析を行った。

NRI の対象人物毎の支持的関係因子得点と特性罪悪感下位尺度の相関を表 1 に示す。女性では、「慢性的苦悩」得点と母親・父親・きょうだいとの支持的関係との間に有意な負の相関が見られたが、男性では相関はほとんど見られなかった。また女性では、「誘惑への抵抗」得点と母親・きょうだいとの支持的関係との間に有意な正の相関が見られたが、男性では逆に、母親・父親との支持的関係との間に負の有意な負の相関が見られた。

表 1 NRI 支持的関係と特性罪悪感下位尺度との相関

NRI 対象人物	慢性的苦悩		誘惑への抵抗		対人的罪悪感	
	male	Female	Male	Female	Male	Female
母親	.012	-.401 *	-.571 *	.429 *	-.096	.590 **
父親	.013	-.390 *	-.474 *	.133	-.163	.281
きょうだい	.061	-.435 *	-.187	.419 *	-.098	.366 *
友人	.157	-.263	.363	.244	.183	.272
恋人	-.289	.012	-.117	.349	-.558 *	.114

図 1. 母親との支持的関係 (Support Scale) と特性罪悪感下位尺度 (左=慢性的苦悩, 右=誘惑への抵抗) との相関。

考 察

特性罪悪感の下位尺度と NRI との相関のパターンは、性別によって大きく異なった。女性の場合には、家族 (母親ときょうだい) との親密な関係が、高い対人的罪悪感や誘惑への抵抗と関連したのに対して、男性の場合には、両親と親密な関係にない者の方が高い誘惑への抵抗を示す傾向が見られた。これらの結果から、良心の獲得過程には、性別によって大きな違いのあることが示唆される。また、女性の場合のみ、家族との親密な関係が、慢性的罪悪感に対しては拮抗的に作用することが示唆された。ただし、今回の調査は予備的なものであり、より多くの標本を対象に調査を行い、結果を慎重に検討する必要がある。